

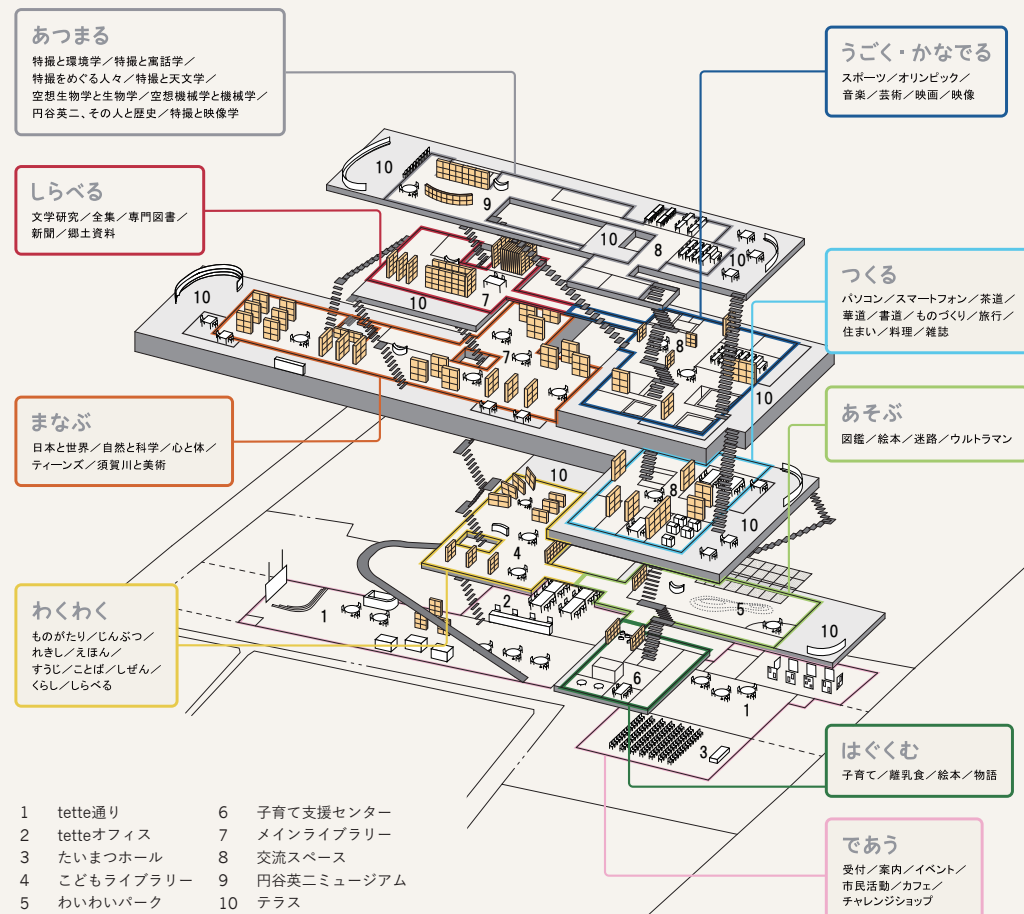
1400の声から見た複合をこえる融合

約数的に集約し、優先順位を付けるとともに、導入機能の4つの基本方針（①図書館、公民館、子育て支援機能をメインとする。②市内の他の公共施設と役割分担が可能な機能は重複を避ける。③街なかの回遊性を確保するため、街なかにある現存のサービスとの重複を避ける。④市民からの要望が多く、新たな利用を促進する機能などは導入する方向で検討する）を定めて整理しました。その結果、屋内遊び場や子育て相談機能（子育て支援センター）、一時保育機能（預かりルーム）、独立型の子ども図書館、中学生・高校生が利用できるスペース（音楽スタジオ、ダンススタジオ、学習ルーム）、円谷英二ミュージアムなどを導入することになりました。一方で500人規模のホールやトレーニングジム、温泉プール、レストラン、スーパードなどは導入しないことにしました。

これら市民ワークショップを通じて設計チームは、機能区分を超えてそれぞれの機能が融合し、活動と情報が互いに関係する新たな施設のあり方を見出してきました。

融合

STEP4 フロアに9つの活動を振り分け！



TURNING POINT

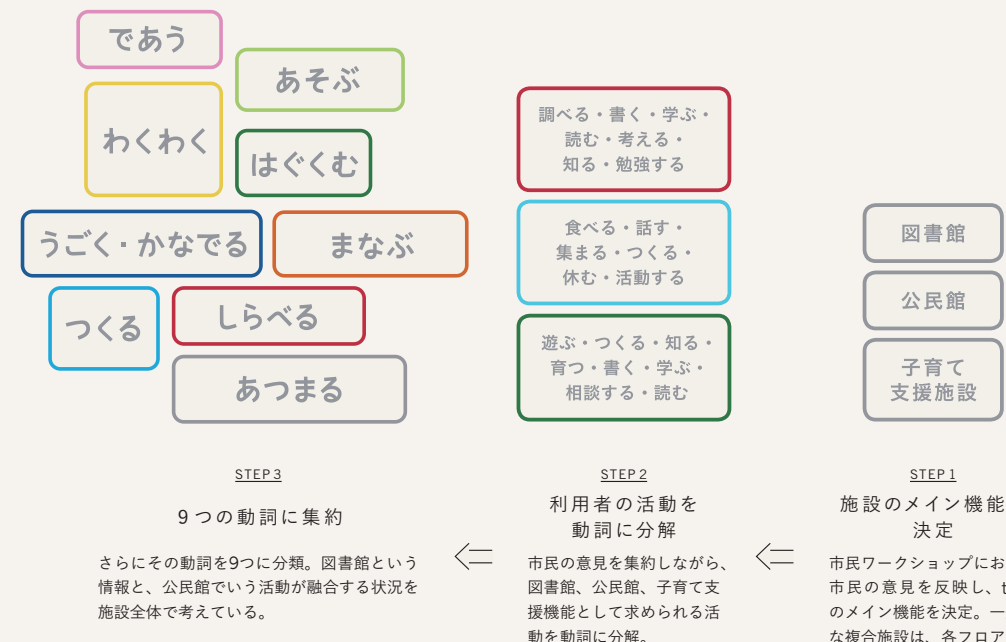
5

須賀川市民の 1400の声をカタチに

Workshop

須賀川市民交流センターのプロジェクト案が決まってから、実際に利用する市民のみならず、施設計画の段階から参加できるように、須賀川市では、平成25年11月から12月にかけて25回のワークショップを開催しました。その他に地元説明会や、市民活動団体・地元商店街団体等へのヒアリング、さらにパブリックコメントなども実施しました。その結果、約1400の市民の意見が集まりました。これらの意見や要望を最大公

複合



1400の意見・ ワークショップの様子

市の関係部署の職員と設計チームは、市民の意見や要望を前に模型を見ながら話し合いを重ねた。



複合をこえる融合

tetteの立体構成図